

令和7年度 学校教育目標等

教育局	檜山	学校	北海道上ノ国高等学校	課程	全日制課程
-----	----	----	------------	----	-------

- 1 学校教育目標
 - (1) 知性を高め、自ら学ぶ力をつける。
 - (2) 情操を豊かにし、思いやりの心を育てる。
 - (3) 心身ともに鍛え、実践する力をつける。
- 2 スクール・ミッション
 - (1) 生徒一人ひとりが自他のよさや可能性を認め合う中、豊かな人間性を育み、さまざまな社会変化を受けとめながら学びを人生や社会に生かし、新しい価値を創造する人財の育成
 - (2) グローカルな視座から地域社会への当事者意識を醸成する「地域を育てる学力」を育み、多様な他者と協働しながら持続可能な地域・社会の未来を創る主体の育成
- 3 3つの方針（スクール・ポリシー）

○育成を目指す資質・能力に関する方針
(1) 自らの夢や目標を達成するため、習得した知識・技能を活用して、さまざまな活動や課題の解決に意欲的・主体的に取り組み、継続的に学びに向かう力を育成する。 (2) グローバルな視点で物事を俯瞰し、ふるさとを愛し平和で公正・公平な社会を構成する一員として地域や社会に貢献できる力を育成する。 (3) 豊かな人間性、他者への思いやり、自他の生命を尊重する気持ちを持ち、望ましい職業観や勤労観、社会性を身に付け、社会や職業に円滑に移行できる力を育成する。
○教育課程の編成及び実施に関する方針
(1) 「主体的・対話的で深い学び」を踏まえた学習指導の工夫・改善および選択科目の充実を推進し、基礎的・基本的な学習内容の定着を図る教育課程の編成・実施。 (2) 「総合的な探究の時間」を含めた教科と特別活動の調和を図り、生徒一人ひとりの特性の伸長を図る教育課程の編成・実施。 (3) 生徒一人ひとりの能力・適性を的確に把握し、地域と連携・協働しながら、地域・社会の未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む教育課程の編成・実施。
○入学者の受入れに関する方針
(1) 自分たちの住んでいる地域の良いところや、困っていることに興味を持って、「自分から何かやってみよう！」「自分も地域社会の一員なんだ！」という気持ちを育てながら、世代を超えたさまざまな人との「つながり」を大切にして、みんなといっしょに成長しようと思う「架け橋」になる人 (2) 世界に目を向けて、外国のことや文化に興味を持ち、「人や地域、社会のために何かしたい！」と考え、未知のこと、やったことのないことでも自分から行動を起こし、積極的にチャレンジする人

4 指導上の重点事項

重点 目標	①生徒理解を深め、一人ひとりの可能性を最大限引き出す教育の実践 ②社会変化を前向きに捉え、持続可能な地域社会の創り手としての主体性と当事者意識を育む探究的な学びの実現
学習指導	①学習意欲を高める指導の工夫・改善を図り、全ての生徒に分かる授業を展開し、あらゆる学びの基盤となる基礎学力の定着を図る。 ②全ての授業において、探究的な学びと協働的な学びの充実を図り、学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力や人間性を高める教育を推進する。 ③ユネスコの基本理念であるESDを推進する中、「主体的・対話的で深い学び」の実践を通じ、持続可能な社会の担い手を育成すべく、主体性と当事者意識を育む学びを実現する。 ④ICTの効果的な活用及び個々の可能性を伸ばす評価の在り方について研鑽を深める。
生徒指導	①多面的な生徒理解及び生徒・保護者との信頼関係を基盤にした組織的な生徒指導・生徒支援体制の充実に努め、生徒一人ひとりの自己肯定感を高める。 ②人間性を高め、主体性と自治的集団を育成するため、生徒会活動や各種委員会活動、ボランティア活動、部活動（含KEEP）等のより一層の充実に努める。 ③教育相談体制の充実、ステップアッププログラムや地域の小中学校との交流の機会などを通じ、良好な人間関係を構築するためのスキルアップを図り、いじめの未然防止につなげる。
進路指導	①校内外の多様な関係者との関わり合いを重視したキャリア教育を体系的・計画的に推進し、学校生活から社会生活へ円滑に移行するための指導を充実させる。 ②自己理解を深化させ、持続可能な地域社会の創り手として、主体的に社会に関わる意識を高める中、進路意識の高揚を図る。 ③生徒個々の進路希望の実現達成に向け、適切な進路情報の提供を含めた各種取組を通じ、生徒・保護者・地域の期待に応える進路指導を確実に実行する。
健康安全	①自他の生命を尊重し、健康的で安全な生活を営むための効果的な保健指導や安全教育を着実に実行する。 ②地域と連携し、防災・災害発生時の備えに向けた防災・減災意識を高める。 ③感染症予防の指導を継続するとともに、感染症への理解を深め、差別や偏見のない社会づくりに努める。
働き方	①全ての教職員が働きやすさとやりがいを感じる、相互扶助の精神に満ちた職場づくりに努める。 ②週一日生徒完全下校日の確実な実行や校務DX推進など、実効性のある働き方改革を進める。